



保育の質向上に向けたガイドライン

# 港区

# 保育の実践事例集

港区子ども家庭支援部



## 港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

### はじめに

港区は、令和3年4月に児童相談所設置市となり、児童福祉施設の設置認可や指導監督に係る権限が大きく拡充され、多様化する保育ニーズに対しこれまで以上に主体的に対応することができるようになりました。

令和5年4月には、こども基本法が施行されました。子どもの最善の利益を第一に考える保育施設においては、こども基本法の理念を理解し、子どもの気持ちを十分にくみ取り、一人の人間として尊重し、生活やあそびを通して健やかな育ちを支えていくことがこれまで以上に求められます。

令和4年11月から区内全ての保育施設には、子ども政策課子ども施設指導係の定期的な訪問に加え、保育の専門的な知見を有する保育アドバイザーを各保育施設に派遣し、園の抱える様々な課題に対して具体的な指導や助言を行い、園運営や保育環境の改善に取り組んでいます。

さらに、令和5年度は、より一層保育の質を高めるため、保育士が日々の保育の中で様々な事例を参考にしながら子どもへの理解を深め、実践にすぐに役立てることができるよう、「保育の実践ガイドライン」の策定に取り組みました。

策定にあたっては、令和5年4月に「港区保育の実践ガイドライン策定委員会」を立ち上げ、学識経験者として、東京大学大学院教育学研究科准教授 野澤祥子先生、こども教育宝仙大学こども教育学部専任講師 松浦美奈先生はじめ、区内の公私立保育園や認定子ども園、小規模保育事業所の園長代表でメンバーを構成し、策定にご尽力をいただきました。

委員会では、各園から収集した事例を『子どもの人権』や『主体性を育てる遊び』など、保育の視点を7つの項目に分けました。具体的な場面をイメージし、保育の展開のヒントとなるよう検討を重ね、港区ならではの保育の実践事例集を策定しました。

全ての保育士が、この事例集を通して保育実践の現場で創意工夫を図り、子どもの笑顔が生き生きと輝くよう、更なる質の高い保育に取り組んでいくことを願っています。

結びに、「港区保育の実践ガイドライン策定委員会」において貴重なアドバイスをはじめ、多大なご協力を賜りました野澤祥子委員長と松浦美奈委員に厚く御礼申し上げます。

港区子ども家庭支援部

# 目次

港区の保育が目指すもの ..... 1

事例集の活用方法 ..... 2

## 1 子どもの人権 ..... 3

### column

1 プライベートゾーンを考えるきっかけに絵本の活用を ..... 4  
2 子どもの呼び方、どう考えますか? ..... 4  
3 せんせい、くだもの先に食べてもいい? ..... 4  
4 トイレに行くタイミングはいつ? ..... 5  
5 何を選ぶ? ..... 5  
6 子どもの気持ちに寄り添う ..... 5

## 2 主体性を育てる遊び ..... 6

### case

1 1本のロープから広がった立体的な遊び [5歳児] ..... 7  
2 主体性を育てる遊びを育む環境 [1歳児] ..... 8  
3 一人一人の生活を大切にす [0歳児] ..... 9  
4 収穫からクッキング [5歳児] ..... 10  
5 都会の中での田植え体験 [5歳児] ..... 11

### column

1 自由な発想で製作を楽しむ [5歳児] ..... 12  
2 好きなことに夢中になる [5歳児] ..... 12  
3 0歳児の主体性を育む環境 [0歳児] ..... 12  
4 オタマジャクシの飼育を通じた話し合い [5歳児] ..... 13  
5 みんなで調べてみよう!ダンゴムシのこと [4歳児] ..... 13

## 3 異年齢での関わり ..... 14

### case

6 クラス間の連携による異年齢保育の工夫 [3. 4. 5歳児] ..... 15  
7 年長が主体となった異年齢児との関わり [全園児] ..... 16  
8 年下の子との関わりと触れ合い遊び [2. 5歳児] ..... 17  
9 毎日の自然な関わり [0. 1. 2歳児] ..... 18

### column

1 絵本を通しての触れ合い [全園児] ..... 19  
2 穏やかに過ごせるスペース [0. 1. 2歳児] ..... 19

## 4 地域社会との交流 ..... 20

### case

10 地域のアドプト活動に参加 [4. 5歳児] ..... 21  
11 お店屋さんごっこから買い物の実体験 [5歳児] ..... 22  
12 集団遊びを実現するための複数園のつながり [5歳児] ..... 23

### column

1 もうすぐ一年生、小学校ってどんなところかな [5歳児] ..... 24  
2 気軽に訪れ相談することができる保育園 ..... 24  
3 近隣園との交流から友だちを増やそう [5歳児] ..... 24  
4 ビルの総合訓練に参加 [全園児] ..... 25  
5 保育園の存在を知ってもらう機会 [全園児] ..... 25

## 5 特別な配慮が必要な子どもの保育 ..... 26

### case

13 安心して過ごせる居場所づくり [3歳児] ..... 27  
14 外国籍家庭にも伝わる掲示 [保護者] ..... 28

### column

1 絵カードを常に身に付ける保育の工夫 [3歳児] ..... 29  
2 他職種との連携 ..... 29  
3 他機関との連携 ..... 29

## 6 保育園での安全管理 ..... 30

### case

15 子どもと一緒に考える様々な訓練 [4. 5歳児] ..... 31  
16 アレルギー対応と子どもの成長をとらえた職員の話し合い [2歳児] ..... 32

### column

1 AEDの操作方法を学ぶ ..... 33  
2 散歩先での訓練 ..... 33

## 7 職員のスキルアップ ..... 34

### case

17 職員間のコミュニケーション♪かたるん♪ [職員] ..... 35  
18 ドキュメンテーションの共有を通じた保育の振り返り [職員] ..... 36  
19 ワークシートを用いた子どもの姿の語り合い [職員] ..... 37

### column

1 公開保育 ..... 38  
2 往還型の研修 ..... 38  
3 保育アドバイザー派遣事業 ..... 39  
4 職員のクラブ活動 ..... 39

## 港区の保育が目指すもの

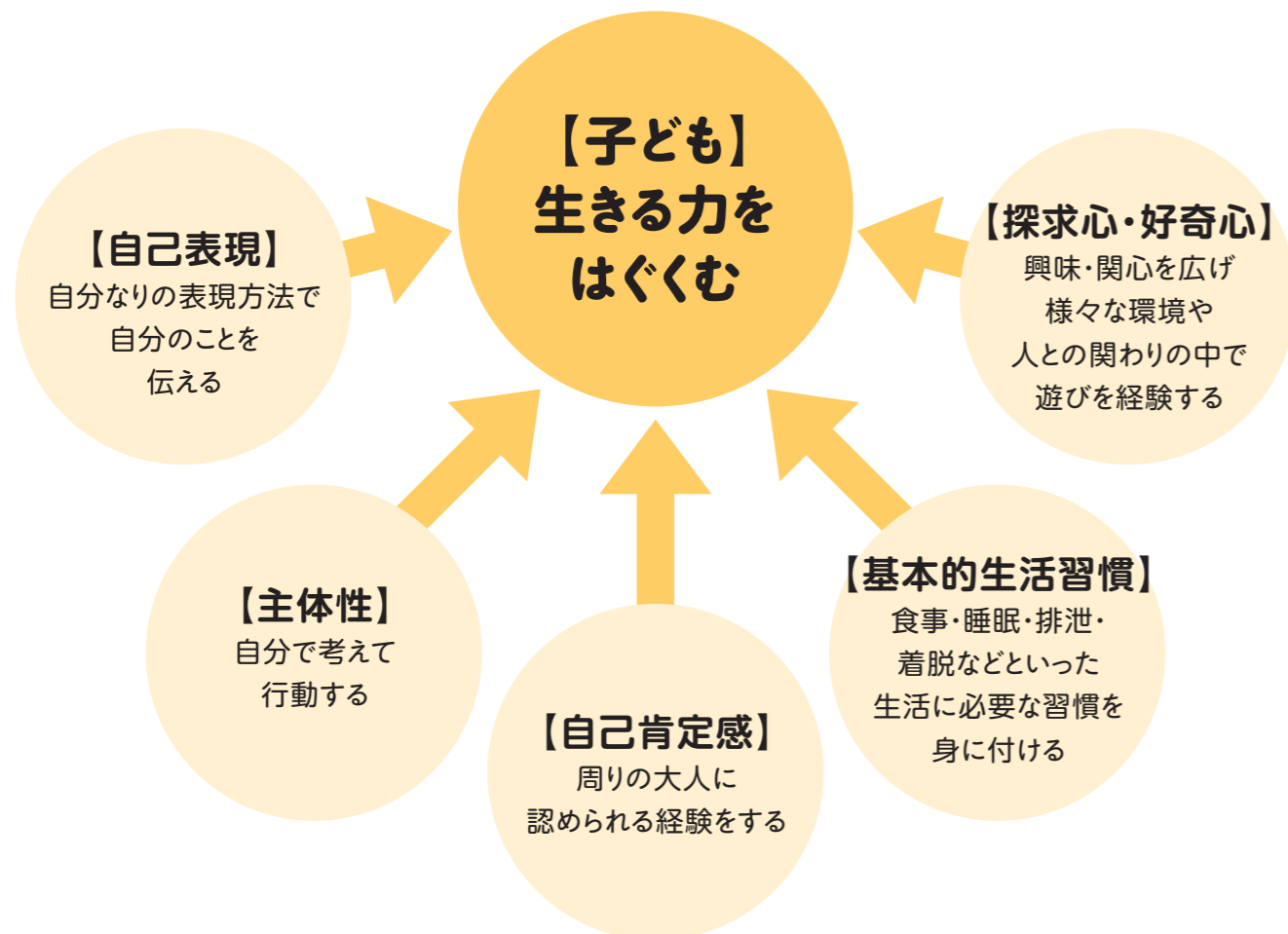
子どもは社会の希望で未来をつくる存在であり、あらゆる場面において人権が守られる必要があります。また、様々な環境と関わり、遊びや体験の中で自ら学び「生きる力」を育んでいきます。私たちは、生活やあそびを通して健やかな育ちを支え、子どもの権利を尊重する保育を目指します。

### 生きる力をはぐくむ

これまで港区は、保育園、幼稚園、認定こども園での育ちと学びを小学校教育へとつなぐために、「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」の三つの力を伸ばすことを念頭に置き、保育、教育を進めてきました。

各保育施設にはそれぞれに特色や保育方針があり、また人員体制や施設の状況も異なります。しかし、全ての保育施設に共通することは、子どもの保育を通して、この時期の子どもたちの「今」が心地よく生き生きとするものになるとともに、長期的視野をもって「未来」を見据え、生涯にわたる子どもの生きる力の基礎が培われることが大切です。

生きる力をはぐくむために大切にしたいこととして、以下の5つを考えました。



## 事例集の活用方法

この事例集は、港区内の全ての保育施設における「保育の質の向上」を目指すため、様々な保育現場において環境構成の改善や、保育実践のヒントとして活用していただくことを目的としています。

保育所保育指針（以下保育指針という）とも照らし合わせ、次の7つの項目を柱にして本事例集にまとめました。



- 各項目の課題説明のあとにケースとコラムを紹介しています。
- タイトルには上記のアイコンがついています。内容によっては複数のアイコンがつきます。
- 事例内容ごとにクラスが記載されていますが、各園の状況に合わせて参考にしてください。
- 本事例集で取り上げた事例は、各保育施設等における保育実践の参考となるよう作成されたものです。

必ずしも全ての事例が全保育園に当てはまる取組とは限らないことから、自園の実情に合わせて、保育を創意工夫することに役立ててください。

# 子どもの人権



## 子どもの人権とは

保育園では、子どもの発達や個人差等に留意しながら、子どもの人権に配慮した保育を心がけていますか？子どもの人格を尊重するとともに、「子どもが権利の主体である」という認識を持つことが大切です。子ども一人一人の『生きる権利』『育つ権利』『守られる権利』『参加する権利』が保障されるよう、保育や子育て支援を適切に考えていきましょう。

## 保育の課題

- 今、社会では『不適切な保育』が問題になっています。では、『不適切な保育』について、どのようなことが思い浮かびますか。例えば、以下の関わりはどうでしょう。
- 子どもが年齢相応の行動がとれない、保育士の思いとは違う態度をとるなどの場面で、「あかちゃん組に行く？」「〇〇組になれないよ」などの言葉をかける。
  - 不必要に大きな声で遠くから叱る。
  - 子どもを呼ぶときに呼び捨てで呼ぶ。
  - 遊びに夢中になっている子どもに後ろから声をかけ、急に抱き上げる。

『人権擁護のためのセルフチェックリスト』※を職員同士の話し合いの場で活用していますか？

チェック項目は毎日の保育を振り返るきっかけとなります。子ども一人一人が尊重され、安心して生き生きと過ごせる関わりや環境づくりが増えていくといいですね。

※『人権擁護のためのセルフチェックリスト』とは、全国保育士会によって作成されたセルフチェックリスト

## 目指したい保育

- 子ども一人一人を大切にした保育を行う。
- 子どもが自分の気持ちを十分に表すことが出来る環境を作る。
- 自分の気持ちや体だけではなく、友だちの気持ちや体も大切にすることを伝えていく。
- 子どもを抱き上げたり言葉をかけたりする時には、子どもを尊重した対応を心掛ける。
- 「男の子らしく」「女の子らしく」と大人が固定概念をつくるのではなく、多様な選択と自由な発想が尊重されるような保育を意識する。

**子どもの人権について、色々な場面で考える視点を持つことで、子どもへの関わりを考えるきっかけになります。**

**「これはいい、これはだめ」という理解ではなく、常に考え続けることが大切です。**



『だいじだいじどこだ？』

作：遠見才希子 絵：川原瑞丸

出版：大泉書店

自分の体を知ること、またプライベートパーツを理解し、自分も他人も大切な存在だということを認識することが大切です。



『おしえてくもくん』

監修：小笠原和美 制作：サトウミユキ

企画：masumi 出版：東山書房

空の上から子どもたちを見守っていたくもくん。大切なことを伝えるために子どもたちを「おそろのきょうしつ」に連れていきます。

子どもの呼び方、どう考えますか？

## column 2

保育士が、子どもをニックネームで呼んでいることに疑問を感じ、話し合いをしました。その結果、子どもの呼び方は保護者と確認しあって決めました。

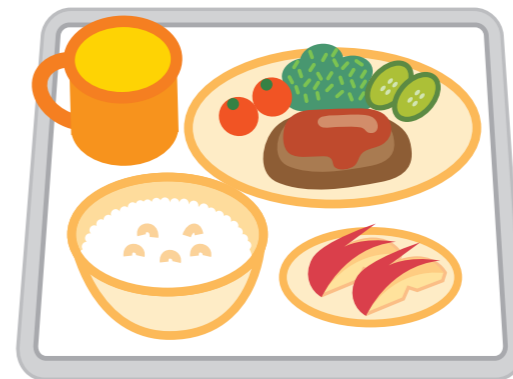
保育士が子どもへの関わりに対する意識の違いが、きつと呼び方や言葉遣いに表れてくるのかもしれない。

子どもの人権について話し合ってみよう

## column 3

テーブルに並んだ給食の果物は、デザートだから最後に食べる？ それとも、好きな物から食べてもいい？ 保育園で、職員の考え方の違いが課題にありました。

食事に対する考え方は、人それぞれで正解はないのかもしれませんが。保育園の中で話し合ってみる機会をつくり、みんなが納得できる方法を考えることも大切なのではないのでしょうか。



プライベートゾーンを考えるきっかけに絵本の活用を

せんせい、くだもの先に食べてもいい？

## 主体性を育てる遊び



主体性を育てる遊び

### 主体性とは

「自分の意志・判断で行動しようとする」「やるべきことを自分で考えて行う」ことをいいます。保育指針では、子どもの主体性について、「保育に当たっては、一人一人の子どもの主体性を尊重し、子どもの自己肯定感が育まれるよう対応していくことが重要である。」と記載されています。では、『主体性』=『子どものやりたいようにさせる』ということでしょうか？目の前の子どもたちが何に興味を持っているのか、何を体験させていきたいのかなど、一人一人の子どもの姿を見ることが大切です。

### 主体性を育てる遊びとは

子どもたちが遊びをアレンジしたり、活動についてみんなで考えたり話し合ったりすることで、主体的な遊びが広がっていきます。また、子どもの成長に合わせた玩具や絵本、遊具を手の届く場所に用意し、子どもが選ぶ遊べる環境は、子どもが主体的に遊ぶことに

つながります。例えば、栽培物を育てたり生き物を飼育したりする経験も、子どもたちの主体性に大きく関わっています。そのことについて調べたり、友だちや保育士に意見を伝えたりするなどの主体的な活動にもつながっていきます。

### 保育の課題

- 保育士が遊びの提案をしていくだけではなく、子ども自身が遊びを広げ、継続していく楽しさを感じて欲しいがそこまでできていない。
- 保育室がオープンスペースのため、のびのびと過ごすことが出来る一方で、遊びや活動によっては集中して遊んだり落ちついて過ごしたりする環境づくりが難しい。
- 港区の地域性から自然に触れる機会が少ないので、何かを育てたり世話をしたりする機会が少ない。

保育士は、子どもたちが自由に遊ぶことができる空間と時間を確保し、子どもの主体性を尊重し、子ども同士の遊びが豊かに展開できるような援助をすることが大切です。

### 目指したい保育

- 子どもたちが自分で選び、考え、遊びが発展できるような保育を工夫する。
- 子どもの気づき、発想、工夫を大切にしながら、子どもと一緒に遊びを柔軟に考えていく。
- 身近な生物を意欲的に調べたり関わったりと、興味関心を持てるような保育環境を作る。

子どもが自分で遊びを選ぶ、興味を持ったことや物に夢中になる、

周りの友だちと一緒に活動するなど、

子どもが主体的な生活や遊びが出来るようにするために

職員はどのようなことを大切にして関わる必要があるか

一人一人が考える保育を出し合ってみましょう。

## column 4

トイレに行くタイミングはいつ？

昼寝前のこと。子どもたちに声をかけてトイレに促す場面がありました。

先生は「お昼寝の間に濡れちゃったらどうしよう」と不安に感じて、みんなにトイレに行きたいと思って促しているのかもしれませんが、子ども自身は「トイレに行かないとお昼寝の部屋に行けない」と思っているのかもしれませんが。

子どもの安全管理も考えながら、一人一人に寄り添った対応を心がけてみましょう。

## column 5

何を選ぶ？

例えば製作などの活動中、子どもが自分で好きな色や好きなデザインを選んだとき、先生たちはどのような言葉をかけたらいいでしょうか。

「男の子は青や黒」「女の子は赤やピンク」と決めつけず、子どもたちが「自分で決めた」と自信が持てるような対応を考えてみませんか？



## column 6

子どもの気持ちに寄り添う

0歳児が散歩へ行こうと這い這いをして玄関へ向かっています。その時、なかなか前へ進まない子どもに対して、「お散歩に行けなくなるよ」と言って、後ろから脇を抱き上げ玄関まで連れて行きました。その話を他の職員にしたら、「私もやっていたかも…」と話していました。

何気ない行動ですが、それが必要な場面もあります。でも、子どもの気持ちに寄り添いたい場面もあります。日々の保育の中の色々な場面をとらえて保育を考えるきっかけにしませんか？

case 1



1本のロープから広がった  
立体的な遊び

【事例内容】  
5歳児



一本のロープから広がった遊び



園庭に張ったロープ

子どもたちが自分たちで運べる可動遊具として、園庭にはマットやタイヤ、ビールケースを常時設定しています。しかし、園庭は全園児が交代で使用する場所のため、継続して遊ぶことが困難でした。それでも子どもたちは遊びを工夫して、ままごと遊びや基地ごっこを行っていました。

✓ 取組とポイント

前年度から海賊ごっこを楽しんでいた5歳児の「屋根があるといいな」の言葉に、担任が園庭に1本のロープを張り、布やシートをかけておきました。すると、子どもたちが次々に加わって、アイデアを出し合いながら遊具を並べ替えたり重ねたり、海賊船のイメージを共有していきました。

遊びを途中でやめなくてはならず、「続けたいから残したい」と園長に相談に来た時、「小さい子達が触ってしまうけど、いいのかな」と尋ねました。

●クラスで話し合い、「遊びを続けたいから、触らないで下さい」と手紙をつけたことで、翌日まで他クラスの協力を得て継続できました。

✓ 気づきと学び

- 一本のロープが屋根や帆になり、友だちとイメージを共有する楽しさを体験し、立体的な遊びへと発展することにつながりました。
- 保育活動は、次の遊びにつながる仕掛けと準備を行うために、日々見直す必要があると感じました。
- イメージを友だちと共有する楽しさを体験したことで、他クラスの子の存在を気にしつつ、保育士とあそびの継続について交渉したことに成長を感じました。

case 2



主体性を育てる遊びを育む環境

【事例内容】  
1歳児



仕切られた保育室内



コーナーに仕切ることじっくりと遊ぶことができる

玩具はあるものの、室内が乱雑になっていると子どもたちは落ち着かず、集中して遊びこむことが難しくなってしまいます。子どもたち自身が好きな遊びや気に入った遊びを見つけ、落ち着いた雰囲気でごして欲しい、遊びを通して他児との関わりを広げ、保育士と安心して遊んで欲しいと考えました。

✓ 取組とポイント

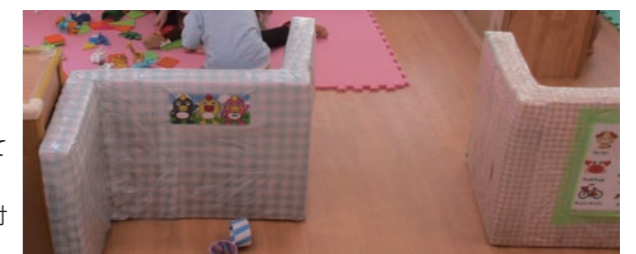
保育室内には仕切りが少なく、コーナーを作りにくい環境でした。はじめはジョイントマットを目印にして様々な玩具を設定しました。しかし、スペースが広いと落ち着かず、子どもたちは動き回って衝突などの危険も増えてしまいました。

次に、室内を仕切ることにして、各コーナーの玩具は小さなかごに小分けして棚に設定し、子どもが選びやすく、手に取りやすい、遊びが混同しないような工夫をしました。

●仕切りを作るときは死角にならないように、職員同士の連携が大切だと感じました。

✓ 気づきと学び

- パック飲料<sup>\*</sup>の仕切りや棚を活用してコーナーに分けたことで、動き回ることが減り、衝突などの危険が減ってきました。仕切りはパック飲料で出来ているので、活動によって移動することができます。
- 気に入った遊びを見つけた時は、じっくりと取り組める時間ができたり、横になるスペースを確保したり、一人一人が主体的に遊ぶようになりました。
- 玩具を小分けにすることで、色々な種類の玩具を用意でき、子どもたち自身が気に入った玩具を見つけやすくなりました。ブロックなどが足りなくなった時には、子どもたちから「欲しい」という声が上がりました。



※飲料のパックはよく洗って乾かしてから使います。  
※アレルギーには十分気を付けましょう。

case 3



一人一人の生活を大切にする

【事例内容】  
0歳児



鏡を見ながら、つかまり立ちができる



活動がしやすいように室内を仕切る

一人一人の発達に応じた生活や遊びの保障、月齢差に応じた保育室環境の構成を、ワンフロアの保育室の中で工夫することに難しさを感じていました。子どもたちの姿から、0歳児一人一人の発達を大切に安全な環境を通して、保育士との愛着関係を育むことを考えました。

✓ 取組とポイント

環境図やその時の保育士のねらい、子どもの姿を記録に残し、視覚化して振り返りを行いました。また、子どもたちの成長から出る問題点の改善策を考えていきました。

低月齢児の生活リズム（睡眠・遊び）を保障する環境と、高月齢児は歩行開始までの過程を安全に獲得できるようなスペースを確保するため、柵や棚の配置について、重点的に考えていきました。

● 毎日の子どもの姿から、月齢が違う子どもたちの環境を柵で仕切ることになりました。

✓ 気づきと学び

● 低月齢児はスペースが確保できたことで、安全な環境で寝返りや腹這いでの遊びを十分にできるようになり、ゆったりと睡眠を取れるようになりました。また、高月齢児は広いスペースが確保できたことで、這い這いやつかまり立ち、伝い歩き、歩行が十分にできるようになりました。つかまり立ち用のバーに立ち鏡を設置すると、鏡を見ながら表情豊かに遊んでいます。

● 高月齢児、低月齢児ともに保育士との触れ合い遊びが増え、愛着関係が広がってきているように感じます。

● 成長とともに環境の見直しが必要になるため、振り返りを定期的に行い、職員会議等で共有し、継続的に学ぶ機会を持っていきたいと思えます。

case 4



収穫からクッキング

【事例内容】  
5歳児



駐車場脇のスペース



子どもたち自身で収穫

『栽培』は園児にとって関心が高い活動の一つです。園庭もなく、窓際では十分に育たない環境の中、ようやく駐車場脇一角での栽培が出来ることになりました。

しかし、ビル駐車場脇での栽培のため立入禁止となっていて、水あげや観察ができないため、子どもたち自身が直に育てている感覚が持ちにくいことを懸念していました。

✓ 取組とポイント

栽培が出来るようになり、春夏秋冬には季節の野菜があることを知らせるとともに、自分たちで育ててみたい野菜を図鑑を使って調べ始めました。プランターの設置場所は駐車場脇となっていて立入禁止の場所です。それでも0歳児室の窓越しに見ることができると、5歳児は保護者を誘い、一緒に観察することを楽しんでいました。水やりや近くで見たり触ったりできない状況でしたが、子どもたちは自分で選んだ野菜を育てたいという意欲が出始めてきました。

いよいよ収穫が近づいてきたころ、可能な限り近くで見られる機会を作ると、実の成長や葉の様子を観察し自分で何を収穫したいか発言をしていました。調理できるものが限られてしましますが、収穫したものはすぐにクッキングすることを楽しむことができました。

● 収穫ができるようになってからの保育士や子どもたちは、意欲や喜びから達成感、探求心へとつながっていききました。

✓ 気づきと学び

● 収穫とクッキングを経験し、食について興味を持つ子どもが増えたように感じます。

● 自分で栽培したものに思い入れを持ったことで食べる意欲につながりました。

● 港区ならではの環境下での取り組みでしたが、限られた状況を最大限に活かせるように、地域の人たちとの関わりや密な連携を大切にしていきたいと感じました。



収穫が近付いた頃、園内に移動し観察



case 5



都会の中での田植え体験

【事例内容】  
5歳児



裸足で土作り

都会のビルや高層マンションに囲まれて保育をする中で、子どもたちに自然に触れる機会を持たせたい、触れる楽しさを体験させてあげたいと考え、タライを使った田植えを考えました。

土作りからお米の収穫まで、5歳児が活動の中心となり進めていきました。

✓ 取組とポイント

最初に田植えの土作りを行いました。土作りでは、足を入れた時の感触や、なかなか足を動かさず重くなる感覚を子どもたち同士で楽しんでいました。

次に出来上がった泥に順番に苗を植えていきました。細い小さな草のような苗をみて、「こんなに小さいのにお米になるの？」と不思議そうにしている子どももいました。

●田植えから収穫までを通して色々な作業を十分に楽しむことができたことで、いつも食べている『米』について興味を持つようになってきました。

✓ 気づきと学び

●田植えの土作りを通して、泥に触れる体験を楽しむことができ、自分たちが植えた苗がどう育っていくのか、子どもたち同士で話す姿もありました。

●子どもたちが興味関心のあるものをさらに広げていかれるように、子どもたちの声に職員も耳を傾けていくことが大切だと感じました。

●都会の中でもどのように自然を感じる体験が子どもたちとできるか、これからも考えていく必要性に気づきました。

〔5歳児〕 column 1



それぞれのイメージで作ったこいのぼり

日本の伝統的な行事を子どもたちに伝える時、例えば、製作活動を取り入れる時、クラスみんなが同じものを作っていますか？

子どもたちの製作活動の取り組み方や興味や関心は一人一人個人差があります。固定観念にとらわれず、自由な発想で造形活動を楽しんでいけるといいですね。5歳児であれば、友だちと協力し合って発想を広げ、大きな作品にも繋がるかもしれません。

自由な発想で製作を楽しむ

column 2 〔5歳児〕

好きなことに夢中になる

身近なものを集めた廃材コーナーの中から見つけた筒。子どもは何かひらめいたようです。作ったものは『眼鏡』。「眼鏡をかけたらもっと見えるのではないか？」と考えたようです。

完成して本を見ると「すごくよく見えた」と感激し、友だちも気になって「どんなふうに見えるの？」と聞いていました。



「よく見えるよ！」

自由な発想と、発想を形にできる環境はとても大事なこと。自分で考えて、やってみて、試行錯誤して…やり遂げた満足感と、友だちとの関わり、遊びの広がりにはかけがいのないものですね。

〔0歳児〕 column 3



●ここには何が入っているのだろうか？自分で次々と出してみよう。

●これはここに入るのかな？手作りのボール落としの穴に色々なサイズのボールを入れてみよう。

●ここは私のスペース！飲料パックの仕切りでくつろいじゃおう。

0歳児の主体性を育む環境

## 異年齢での関わり



異年齢での関わり

### 異年齢での関わりとは

毎日の保育園生活の中で、子どもたちは様々な年齢のクラスの子ともたちと触れ合い、関わりを持ちます。一緒に過ごす楽しさや、工夫し協力しながら関わりを深めていくことで、思いやりの気持ちや年下の子が年上の子に憧れる気持ちが育っていきます。また、「他の誰かの役に立つ」経験も大切です。「〇〇してあげる」ということが嬉しくて手伝いや世話をし、相手に喜ばれ感謝されることで、「もっと役立つことをしたい」という気持ちが芽生えてきます。

### 目指したい保育

- 異年齢での交流が活発にできるように、職員同士が連携し工夫していく。
- 朝夕だけではなく、日ごろから乳児クラスと幼児クラスが自然な交流ができる場を増やしていく。
- 異年齢交流を通して、社会性や年下の子への思いやりを持つ気持ちを育てていく。
- クラスの中だけではなく、子ども自身が遊びたい場所を選び、そこでの約束などがわかって友だちと遊ぶことが楽しめるように工夫していく。

### 保育の課題

- クラスの子どもの人数が少ないため、友だち同士で親しい関係が作りやすく、保育士との信頼関係も築きやすいが、異年齢での集団で経験できる機会が減ってきている。
- 朝や夕方の時間は異年齢での関わりが持ちやすいが、特定の子どもたちだけが関わりを持ち、全員が経験することが難しい。
- 異年齢の関わりを持ちたいと思うが、時間や場所、活動内容や遊具などの設定に悩む。

『異年齢同士であそぶ日』として計画を立て、行事の時や毎月決まった日などに関わりを持っている園があります。また、0～2歳児までの小規模保育事業所などでは、日ごろから一緒に活動をして自然に交流を持っています。その一方で、園児数が少ない園は、活発な異年齢の交流を持つことに難しさを感じています。

**異年齢の関わりの中で、子どもたちは自分の意思や感情を言葉だけではなく、表情やしぐさでも伝えようとします。**

**その関係の中で、年上の子も年下の子も何を育てていきたいか、どんなところが育って欲しいかがポイントですね。**

### column 4 [5歳児]

#### オタマジャクシの飼育を通じた話し合い

生き物を飼育することを通し、図鑑で調べ友だちと考えを出し合いながら、相手の意見を自分の考えに取り入れたり選んだりする経験をして欲しいと考えていました。

ある時、散歩先から捕まえてきたオタマジャクシを飼育することになりました。変化の様子に関心が高まり、図鑑と見比べ、さらに興味を示していきます。カエルへと成長したころ、飼育を継続するか池に放しに行くか、クラスでサークルミーティングを行いました。

サークルミーティングを行ったことで、自分の意見を伝える、友だちの意見に耳を傾ける経験が出来ました。保育士は子どもたちに任せる部分、担当が援助をする部分の線引きについて考える機会となりました。



みんなで集まって話し合い

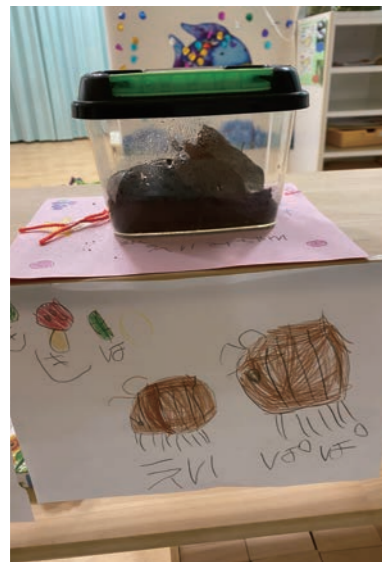
### [4歳児] column 5

#### みんなで調べてみよう！ダンゴムシのこと

港区の地域性の一つに「自然に触れる機会が限られている」ということがあります。その中でも子どもたちが自然に触れる体験を通して、生き物を大切に思う気持ちや、かわいがる気持ちが育つような経験が不足しているように感じていました。

散歩時に公園でアリに興味を持って、握る強さを加減しながら潰さないように捕まえてみたり、虫が苦手な子どもも友だちが捕まえた虫に興味深く観察する姿がありました。ある日、捕まえたダンゴムシをビニール袋に入れて持ち帰り、虫かごに入れて観察することにしました。ダンゴムシの飼い方について話が盛り上がり、クラスで図書館へ行って調べ、家づくりをしました。

保育士が環境を用意するのではなく、子どもたちが自ら調べ、必要な物を揃えていくことで興味が膨らんでいきます。また、子どもの興味から親子で共有しあう姿も出てきました。今後は、このダンゴムシの世話や観察をする経験から、草花などにも興味を持ち、子どもたち自身で環境作りへと発展していくことを期待しています。



興味が大きくなり、ダンゴムシに名前をつける

case 6



クラス間の連携による  
異年齢保育の工夫

【事例内容】  
3、4、5歳児



パディで遊ぶ様子



「私の考えたことはね…」

異年齢活動は、年齢によって集中できる時間が違うので、パディ<sup>※</sup>と一緒に取り組むためには、活動内容の工夫が必要です。また、子どもたちのやりたい気持ちや意欲が継続できるような保育の計画を立てるにあたり、職員間の連携も必要と考えました。

※パディ 異年齢活動を行う時に、3、4、5歳児で構成するグループ。

✓ 取組とポイント

春の頃から幼児クラスでは3、4、5歳児でパディを作り、月に2～3回、異年齢で遊ぶ日を積み重ねてきました。パディとの関係が深まってきた頃、5歳児クラスの子どもたちを中心に、これからどんな遊びをしたいか話し合いました。そして、どのように他のクラスの子どもたちと関わっていくのか、どのように楽しんでもらうかを考えながら準備を進めていきました。

- 異年齢児との関わりを通して、協力しながら遊ぶ楽しさや達成感を一緒に味わえるように取り組んでいきました。

✓ 気づきと学び

- 自分達で考えた遊びだからこそ、張り切ってそれぞれの役割を理解し、取り組むことができていました。
- パディとの関係性が、日常生活や遊びを通して深まることで、お互いの信頼関係を築くこともできています。
- 自分たちで考え、遊びを作り上げる過程の中で、子どもたち自身が楽しみ、生き生きと活動している姿を見ることができると感じました。

case 7



年長が主体となった  
異年齢児との関わり

【事例内容】  
全園児



「一緒に遊ぼう」



「見て、見て！」

旧小学校跡地を利用した施設の為、各保育室は学校教室の造りのままになっています。他のクラスを見通せる環境にはなく、気軽にクラス間の交流が生まれづらい状況でした。

子どもたちが自由にクラス間を行き来できるようにしたいという思いはありましたが、それによって人数把握の難しさやトラブル時の対応方法など、懸念される問題もありました。

✓ 取組とポイント

クラス間を行き来するにあたって、子どもたちと職員間で約束事を考えました。

子どもたちとは、「他のクラスに遊びに行く時と、自分のクラスに戻る時には、保育士に伝えること」を決まりにしました。また職員間でも連携し、保育室マップに子どもの名前を記入して『見える化』する、内線電話で様子を聞く、他クラスに様子を見に行くなどをして、安心して過ごせるような連携をとりました。

- 子どもたちが選んで遊びに行ったクラスで困った時には、人に頼ったり、友だち同士で協力し合ったりする経験が日常の遊びの中で生まれ始めました。

✓ 気づきと学び

- 自由に行動できることで、その子の興味関心のおもむくままに遊びを満喫し、「もっと遊びたい」という不満がなくなりました。
- 子どもたちが自分たちで考える、工夫や協力をするという経験を積み重ねたことにより、保育士側も子どもたちの力を信じ、任せていくことの大切さを実感することができました。
- 子どもたちが集中して遊ぶことで、怪我や事故も少なくなってきました。

case  
8異年齢での  
関わり主体性を育てる  
遊び年下の子との関わりと  
触れ合い遊び【事例内容】  
2、5歳児

5歳児と2歳児のふれあい遊び



「楽しんでくれるかな～」

5歳児クラスになり「年下の子と関わりたい」という気持ちは持っていますが、いざ関わろうとすると、少し緊張している子どもの姿が見られます。

年下の子との関わりを通して、相手の立場にたって声をかけたり、関わることの大切さを知り、さらに交流を深め、様々な友だちに思いを向けています。

## ✓ 取組とポイント

5歳児クラスに進級し、「年下の子に優しくしたい」ということを話していた子どもたちは、年下の子に興味を持って、「一緒に遊べたらいいのにな」と話していました。まず最初は担任間で話し合い、合同保育の機会を設け、触れ合い遊びが出来るようにしました。そして、事前に5歳児の中でどのようなことに気を付けて一緒に遊ぶかを話し合いました。

●力加減や声のかけ方等について確認をし、いつも行っているふれあい遊びを取り入れ、年下の子を思いやりながら遊べるようにしました。

## ✓ 気づきと学び

- 5歳児が進んで2歳児に声をかけるうちに、廊下などで会った時にもお互いに喜んで声をかけ合うようになりました。
- 今までは「可愛いね」と眺めている存在だった2歳児との関わりが、5歳児としての自覚や自信に繋がり、2歳児以外の年下の子とも遊びたいという子どもの意欲にも繋がりました。
- 2歳児以外にも様々な年齢のクラスとも一緒に遊ぶ機会を作り、年齢に応じた関わりを考えられるようにしていきたいと感じました。

case  
9異年齢での  
関わり主体性を育てる  
遊び

## 毎日の自然な関わり

【事例内容】  
0、1、2歳児

「ちょっとさわらせて」

同じスペースで一緒に積み木遊び



自園は0歳児から2歳児までの『小規模保育園』です。在園している子どもの人数も少ないので、保育の色々な場面で一緒に過ごすことが多くあり、0、1、2歳児の自然な関わりが見られています。

## ✓ 取組とポイント

朝夕の保育士が少ない時間は3クラスが一緒のスペースにいるため、自然に関わりを持っています。0歳児の成長とともに、日中の活動時間が増えたことで、1、2歳児クラスの子とも一緒に過ごすことが多くなりました。

その時の環境設定として、年齢にあった玩具の種類や大きさを選び用意をすることで、やりたい遊び、興味のある遊びができるようになってきました。

●自然に関わる姿を見守りながらも、一人一人の成長発達や興味を大切にしていけるような働きかけを心掛けています。

## ✓ 気づきと学び

- 保育室内のスペースを自由に行き来ができるようにしつつも、玩具や子どもの遊びによって仕切ることによって、子ども自身が遊びを選びじっくりと遊ぶようになりました。
- 一緒に過ごすことが増え、職員は自分のクラス以外の子どものことだけではなく、保護者のことも全体で共有しあうようになりました。
- 日中も0歳児と1、2歳児の関わりが自然に見られ、職員同志の連携がとても大切だと感じました。

## 地域社会との交流



地域社会との交流

### 地域社会との交流とは

年長児が在籍している園では、地域の保育園・幼稚園・小学校との交流や研修会を毎年行っています。日頃から保幼小の連携を行うことで、円滑な小学校への移行や接続が図られます。他園の子どもたちと交流することによって新しい刺激を得ることもできます。

地域を拠点としている商店街や町内会、消防署や警察署といった公共の施設などとの交流も行っています。「地域の中の保育園」として、協力し合い、声を掛け合えるつながりが大切です。

### 目指したい保育

- 近隣園との交流で、初めて会う子と集団遊びを楽しむことや、自分とは違う意見の子と関わることなどの経験を通して社会性を養っていく。
- 地域の方々と交流できる環境や機会が少ないので、地域社会との連携を工夫して作っていく。
- 子育て家庭や地域と、保育園とのつながりの中で、地域と密着する保育園を目指していく。

### 保育の課題

- 地域の方との関係が希薄化していて、子どもたちが家族や保育園以外の大人と関わる機会が少なくなっている。
- 園によっては5歳児クラスの人数が少ないため、就学後に30名規模のクラス人数になることを不安に思う子どもや保護者がいる。
- 周辺にオフィスビルや飲食店が多い場所にある園では、身近な地域の方々と交流できる環境や機会が少ない。

家族の在り方が多様化し、地域とのつながりも希薄化しています。幅広い世代の人々と交流したり、社会の文化や伝統に直接触れたりする体験が少なくなっている現状もあります。

### 毎日、保育園で関わっている大人や

仲の良い友だちだけではなく、

地域の方たちや他園の子どもたちとはどんなつながりを持てるか、

色々な経験が出来るようにするにはどうしたらいいか

考えてみましょう。

### column 1 [全園児]

#### 絵本を通しての触れ合い

年上の子が乳児を愛おしく感じ、関わりを持ちたい……でも「一緒に遊ぶ」ってどうするんだろう？そこで、0歳児の時からたくさんの絵本に触れてきた『絵本大好き』な子どもたちは、『絵本の読み聞かせ』をしようと考えました。

何よりも自身の読み聞かせを喜んで見聞きしてくれる姿を体感し、「楽しかった！」「またやりたい！」と大きな達成感を感じていました。



(3歳と1歳)



「よんであげるね！」(5歳と0歳)

### [0,1,2歳児] column 2

#### 穏やかに過ごせるスペース



抱き枕に寝転んでリラックス

朝夕の時間帯に0～2歳合同保育にした時、一人一人が落ち着いた空間で、それぞれに好きな遊びを思い切り楽しめるようにするためにはどうしたらいいのでしょうか？

部屋の仕切りを作成し、空間を区切ることで落ち着いて過ごせるように…長時間保育では疲れが出てくる子もいるので、抱き枕でくつろいで過ごすことができるように…

落ち着いた空間を作ったことで、発達段階や興味関心に応じた遊びの選択がスムーズにできるようになった気がします。

case 10



地域のアドプト活動に参加

【事例内容】  
4、5歳児



花植えをする様子



その日に植える花の紹介

年々地域における人間関係が希薄化しているため、近隣の方々は知らない人ばかりという課題がありました。自分が生活している街に興味や関心を持ち、身近にいる大人の存在に気付けるよう地域活動に参加することにしました。

✓ 取組とポイント

このアドプト活動は、港区と地域企業、警察、消防、地域委員をはじめ、15団体が協力して行うボランティア活動です。近隣小学校及び幼稚園と共に継続してきた合同作業で、年4回行っています。子どもたちは緊張しながらも挨拶ややり取りをかわし、貴重な社会経験となっています。そして、花を植え終わると「きれいだね～」ととても満足気でした。

また、その後の散歩コースのリクエストでは、「花壇を見に行きたい」と歩道を通る希望が多くなり、成長を意識しています。保護者に自分の植えた花を見せたいと、登降園の道のりを遠回りしている子どももいました。

- 保育園周辺の歩道の花植えを小学生や幼稚園児との共同作業で行い、地域貢献を実感しながら交流の場を継続しています。

✓ 気づきと学び

- 散歩途中で「〇〇保育園」だと気づいた方から声をかけられたり、自宅のさくらんぼの収穫の見学に誘ってくれたり、地域との関係が築かれてきています。
- 様々な年代との交流の場は、緊張しながらも関わり方の経験を積むことができ、子どもたちが自ら立ち居振る舞いを意識しています。特に5歳児は、小学生に対して就学への憧れや期待感を身近に感じています。
- 当日だけではなく、事前準備から保育士が参加するようになって、協力団体や地域委員の方との距離感が縮まり、地域のコミュニケーション力を構築する大切さを感じています。

case 11



お店屋さんごっこから  
買い物の実体験

【事例内容】  
5歳児



「これくださ〜い」  
お金を使って買い物体験

地域交流が経験できていない中で、園周辺ではいろいろな人が働いていることを知ったり、買い物体験を通して、お金の価値を知ってほしいと思いました。

そこで、保育の活動内容に計画的に取り入れました。

✓ 取組とポイント

お店屋さんごっこなどの遊びの中で、自分で作ったお金でやり取りをする姿がありました。5歳児のクッキングを計画していたところだったので、クッキングの材料を子どもたちと一緒に買いに行く計画を立てました。

当日は実際に自分たちで買い物に行くことにも期待を持ち、張り切って出掛けました。

- 事前に、カレーの材料はどんな材料が必要なのか、どこで売っているのか、どうやって買うのかを子どもたちと相談しました。その後、カレーライスの絵本を見たり、栄養士と相談したりして買い物リストを作りました。

✓ 気づきと学び

- 店員さんに挨拶をしたりお金のやり取りをしたりすることで、保育士以外の大人と関わるきっかけにもなりました。また、どのように商品が並んでいるのか、誰が陳列してくれているのかを見ることができ、仕事の一部を知ることができていました。
- 「カードがあれば何でも買える」と思っていた子どもも、実際にお金のやり取りをして、物を購入するとはどんなことなのかを知るきっかけにもなりました。
- 5歳児の活動として行いましたが、4歳児もその姿からとても興味を持ち、地域交流として年齢に応じた活動を考えていく必要があると感じました。



## 集団遊びを実現するための 複数園のつながり

【事例内容】  
5歳児



みんなで集まって自己紹介



力を合わせて「エイエイオー！」

自園は全体の定員が少なく空きもあるため、同じクラスの友だちが少なく、異年齢合同での合同保育で過ごすことが多くあります。そのため、年齢に合った集団遊びや同じ年齢同士の生活がなかなかできない環境でした。

### ✓ 取組とポイント

5歳児になると、小学校への憧れや期待を持ちながら過ごしていきます。また、同じ地域で育ち、小学校区域が重なる他園の児童とのやりとりを増やしていく必要性を大いに感じ、他園や小学校との連携をとり、交流を図っています。

様々な経験は集団で遊び、ともに時間を共有していくことで、自身に経験のないことを学びとり考えるきっかけとなっています。

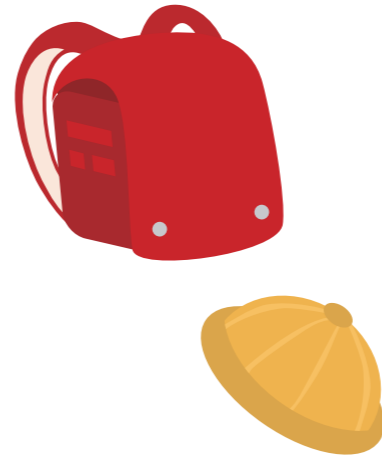
他園の同年令と関わり、集団生活や遊びを経験することで、社会性・協調性・様々な価値観等を身につけて欲しいと思いました。

●自園の子どもたちの中で、交流する喜びや楽しさに大きく期待を持つ姿が見られ、自分たちで得た遊びや生活の仕方を園内で反映させ始めています。

### ✓ 気づきと学び

- 他園との交流や小学校との連携を重ねていく中で、子どもたちの姿、声から様々な学び・関わりの大切さを実感しています。
- 交流をするにあたり、日程・集まる場・天候の問題などがあり定期的に行うことが難しいですが、継続して行えるよう工夫をしていきたいと思っています。
- 1園だけではなく、複数園での交流を設定することで、いろいろな人との関わりを持ち、社会性が広がると感じています。

〔5歳児〕 column 1



近隣の小学校に声をかけてもらい、幼稚園・保育園の年長児が、小学校の授業体験をしました。

算数と国語の授業に参加し、教科書を見ながら音読を聞いたり、鉛筆を持って算数のプリントをやってみたり……。

初めは少し緊張をしていた子どもたちも、お兄さんお姉さんに優しく教えてもらったことで安心した表情になりました。

ランドセルを背負わせてもらい、気分はもうすっかり一年生でした！

気軽に訪れ相談することができる保育園

column 2

各保育施設では地域の子育て家庭を対象に保育園の見学や触れ合い遊び、気軽に楽しめる手づくり玩具の紹介、給食の試食会（年2回ほど）なども実施しています。参加者同士が顔見知りになり、子育ての情報交換の場となっています。

また、育児に関する相談を受け、子どもの育ちに合わせたアドバイスをするなど、気軽に話ができる保育園であるよう心がけています。

〔5歳児〕 column 3



複数園で集まって集団遊びを楽しむ

近隣の園同士、公園で待ち合わせて全員の自己紹介からスタート！全園児をシャッフルして、綱引きやリレーなどのミニ運動会を行ないました。初めて会った子どもたちも、一緒に何かを成し遂げることで一体感が生まれ、ゲームに勝つとハイタッチして喜び、終了する頃には名前呼び合うほどに。

その後の姿では、来園者に自分から挨拶をしたり、困っていることがあると進んで教えようとする積極性も見られました。

もうすぐ一年生、小学校ってどんなんところかな

近隣園との交流から友だちを増やそう

## 特別な配慮が必要な 子どもの保育



特別な配慮が必要な  
子どもの保育

### 特別な配慮とは

保育指針には、「子どもに障害や発達上の課題が見られる場合や外国籍家庭など、状況等に応じて個別の対応、支援を行うよう努めること」と記載されています。障害児保育では、家庭との連携を大切にし、子どもの状況に応じた保育を実施するとともに、子育ての不安を少しでも軽減できるような丁寧な対応が必要です。

また、日本語によるコミュニケーションがとりにくい、文化や慣習の違いなど、外国籍家庭の保護者や子どもは不便を感じていることが多くあります。保育園では、一人一人の子どもたちが安心して生活できるような配慮を考えていく必要があります。

### 目指したい保育

- 子どもたちが安心して過ごせる環境作りや保育の工夫を職員全体で考えていく。
- 外国籍家庭の子どもや保護者に対して、わかりやすい言葉や表現で伝えることを意識し、他の保護者とコミュニケーションが取りやすい環境を作っていく。
- 障害や発達に課題のある子どもに対して、その子どもに合った保育や配慮の仕方を意識して取り入れる。

### 保育の課題

- 全ての子どもたちは日々の生活や遊びを通して共に育ちあっています。保育園での生活を安心して過ごせるようにするために、私たちに出来ることはどんなことがあるのでしょうか。
- 新しい環境に戸惑ったり、集団の活動に入ることが苦手だったりする子どもなど、様々な子どもに対してどのように接していけばいいのか悩む。
  - 子どもの育ちについて保護者と一緒に考えたいが、子どもの状況を共有しあうことが難しいと感じている。
  - 外国籍家庭が保育園の様子をあまり理解していないように感じる。

**子どもたち一人一人が生活しやすい環境を整えていくためには**

**何ができるでしょうか？**

**保育園で「できること」や保護者と一緒に「考えていくこと」が増え、**

**みんなで共有できるといいですね。**

### column 4 [全園児]

#### ビルの総合訓練に参加

多くの企業が入る複合ビルの1階に保育園があります。ビル全体の訓練が行われていることは知っていましたが、午睡の時間に行われていたため館内放送を切ってもらい、職員数名だけが参加していました。しかし、「同じ建物内にいる保育園だけが参加しないのはどうなのだろう?」と考え、ビルの管理会社に総合訓練の時間変更を打診し、保育園も参加したいことを伝えると、快く受け入れてもらえました。

現在は、10時を目安に館内放送に従って、ビルの方々が集まっている待機場所まで移動する避難訓練を行っています。



避難訓練の様子

### [全園児] column 5

#### 保育園の存在を知ってもらう機会

自園は運河沿いのビルの1階に保育園があり、日ごろから水害や津波の訓練を行っていました。しかし、実際に津波警報が出た時、小さい子どもたちがいるので他へ避難するのではなく、垂直避難の方が安全ではないかと考え、ビルの上階へ避難することにしました。そのためには、ビルに入っている企業や管理センターの方々の協力が必要になってきます。

避難は2階までは階段で移動し、それから上階へは共用のエレベーターを使わせてもらいます。当然、仕事の方々と同じエレベーターになることもあります。保育園単独の避難訓練を行うことで、「このビルには保育園があること」「小さい子どもたちが毎日過ごしていること」を知ってもらういい機会となっています。



運河沿いにある保育園も多い



case 13



安心して過ごせる居場所づくり

【事例内容】  
3歳児



廊下のつきあたりに作ったテント



棚の中には好きな玩具が並ぶ

幼児クラスに進級したA君。環境が大きく変わったことでクラスの中で落ち着いて過ごすことが難しくなっていました。大勢の中にいることや大きな声、物音が苦手で落ち着いて遊ぶことや、食事をとることもままならなくなっていました。

✓ 取組とポイント

A君が、保育園で安心して過ごすためにはどうしたら良いのか、担任保育士も悩みながら考えていました。保護者に状況をお知らせした時に、「あまり人がいない狭い場所、静かな場所にいると安心して過ごせる」ことを聞きました。

●職員で話し合い、保育室以外のスペースにテントを作り、棚に好きな玩具を並べて落ち着いて過ごすことができる居場所を設定しました。

✓ 気づきと学び

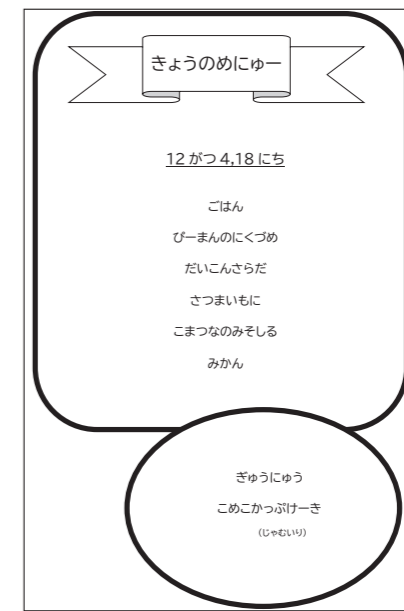
- 集団の中で安心できる居場所を作るためには、保護者と十分に話し合い、理解を得ることが大切だと感じました。
- 狭くて安心できる空間の中でゆっくりと過ごす時間が増えたことで、クラスの中でも皆と一緒に過ごすことができるようになってきました。
- A君が落ちついて過ごせる居場所づくりでしたが、他の子にとっても落ち着ける居場所になりました。

case 14



外国籍家庭にも伝わる掲示

【事例内容】  
保護者



保護者から、「自分の翻訳アプリで掲示を翻訳するが、手書きの物は翻訳することが難しい」と相談がありました。そこで、外国籍家庭にもわかりやすい掲示、文書を作り、わかりやすい言葉、表現で『伝わる日本語』を意識することにしました。

✓ 取組とポイント

園で掲示している文書を確認すると、給食のメニューや1日の様子など、手書きにしている掲示物が多いこと、また会話についても難しい表現をしていることに気づきました。そこで、『伝わる日本語』を意識し、わかりやすい言葉・表現で話すことに決めました。

●『手書きではなく、すべて活字を使用していく』『わかりやすい表現でゆっくりと伝えるようにする』『翻訳機も活用し、「わからない」ことがないように注意する』などを意識して実行していくことを職員間で決めました。

✓ 気づきと学び

- 「翻訳が難しい」と相談してきた保護者はすべて活字になっていることに気づき、感謝を伝えてくれました。それによって、他の外国籍家庭の保護者とのコミュニケーションは各クラスとも良好になりました。
- 翻訳機などの活用で、こちらが伝えたことと相手が理解したことの齟齬が減少していましたが、園内の掲示等は活字のほかに、子どもの名前をローマ字表記するなど、まだできることがあることに気づきました。

## 保育園での安全管理



### 保育園での安全管理とは

事故発生防止や危機管理、災害対策等に対しては、職員間のコミュニケーション、情報の共有、事故予防のための研修や訓練の実施等が不可欠です。重大事故の発生防止のため、組織全体に必要な対策を講じ取り組んでいく必要があります。

### 目指したい保育

- 安全管理に対して職員が常に意識を持つ。
- 日常保育の中での「ヒヤリ・ハット」を共有し、マニュアル作成などに役立てて様々な対策に対応していく。
- 保育中の幅広い時間帯や色々なパターンでの訓練に多くの職員が参加し、緊急時に適切な対応ができるようにする。

### 保育の課題

保育中の事故にはどのような要因がひそんでいるのでしょうか？ 災害だけではなく、保育をしていると「ヒヤリ・ハット」と感じる事が多くあります。以下の状況を考えてみました。

- 日常生活での怪我……玩具の劣化に気づかず使用していた、扉に指ばさみ防止がされていなかったなど
- 施設内への不審者の侵入……保護者と一緒に入ってきた、保護者だと勘違いしインターフォンでの確認不足があったなど
- 散歩中、散歩先での人数確認、置き去り、見失い……人数確認不足、思い込み、職員同士の連携不足など
- 給食食材の誤嚥やアレルギー児の誤食……職員間での確認がマンネリ化していた、危険への予測ができていなかったなど
- 乳児の睡眠中の窒息……あお向け寝にすることの徹底不足など
- 火災、地震、津波等の自然災害……想定外のことが発生

### 日頃から状況に合わせたシミュレーションや訓練、

### 職員同士での共有は大切ですが、

### 「保育園での安全管理」には様々な場面があります。

### どのようなことが必要か、

### 定期的に見直していきましょう。

### column 1 [3歳児]

#### 絵カードを常に身に着ける保育の工夫

保育をする中で、生活の区切りを知らせる時など、言葉かけだけでは伝わりづらいと感じることが何度かありました。そこでわかりやすい絵カードを作成し、担任全員が常に身に着けて保育をする工夫をしました。

絵カードを見せながら話しかけることで、子どもたちも視覚的に理解ができることが少しずつ増えました。それとともに保育士が「すごいね」「よくできたね」と肯定的な言葉をかける機会も増えていきました。



わかりやすい絵カード

### column 2

#### 他職種との連携

保育園には、集団生活に入ることが苦手だったり、発達に課題がある子どもが在籍したりしています。保育園での生活がその子にとって過ごしやすくなるためにはどうしたらいいのか、専門的な知識を得るために職員は研修を受けたり、臨床心理士や言語聴覚士、作業療法士などから専門的な話を聞いて日常の保育に活かしています。

また、保育園で保護者が臨床心理士によるカウンセリングを受けることもできます。子育てについての悩みや不安を聞いてもらい、安心していただく機会になっています。

### column 3

#### 他機関との連携

保育園の集団生活の中では、一人一人の子どもに合った働きかけを継続していくことに、悩んだり不安を感じたりするときもあります。区の児童発達支援センターでは、保護者が子どもと一緒に専門的な働きかけを知ることができ、児童発達支援センターと保育園、家庭とが連携しあい、子どもの成長を一緒に見守っています。

case  
15

## 子どもと一緒に考える様々な訓練

【事例内容】  
4、5歳児

地下への避難



訓練の内容によって避難場所が変わる

戸外活動時は、室内活動時よりも安全を確保することに注意が必要です。職員はとっさに起きた災害などに対して、臨機応変に判断することができますが、子どもにとっては難しいことです。職員だけではなく、子どもたちも含めて園全体で安全に対する意識を向けられるように考えました。

## ▼ 取組とポイント

初めて『Jアラート訓練』を行いました。今まで行った地震・火災・水害とは違い、「Jアラートって何？」と、今までの避難方法とは違うことに関心を示しました。子どもたち同士で「散歩の時に地震があった時はどうやって逃げたら良いの？ Jアラートの時は？」と避難の仕方を確認しようとする姿がありました。

- 子どもたちと実際に戸外に出ながら、一緒に避難の仕方を考えたり確認したりすることで、子どもたちなりに考え、理解を深めていくことができました。

## ▼ 気づきと学び

- 子どもたち自身も自分の身を守るための知識を身に付けて、一緒に地下鉄構内に入ることで「こっちの方が公園にいるよりも安全だね！」と、実際に場所を見ることで納得する様子が見られました。
- 訓練をくり返すだけでは避難の仕方が習慣化していくので、それぞれの災害に対して、子どもたち自身で考えていかれるような働きかけが大切だと感じました。

case  
16

## アレルギー対応と子どもの成長をとらえた職員の話し合い

【事例内容】  
2歳児

アレルギー食は専用のトレーにのせて配膳



アレルギー児専用のテーブルを用意

0歳児クラスから入園したB君には複数の食品にアレルギーがあります。その為、個別のマニュアルを作成し、保護者とも密に情報交換を行うなど細心の注意を払い対応してきました。現在2歳児クラスになり、これまでの安全性も重視しつつも、食事の時の距離感や、着替えをする時などの対応に疑問を感じたことから、今後に向けての対応の見直しを行いました。

## ▼ 取組とポイント

0、1歳児クラスの際は誤食防止、安全性を最優先としてきました。専用テーブルに専用おしぼりを使用、担当保育士が介助し食事室への動線も他児と交わらないように考えました。また衣服に付着した食品が触れることがないように、工夫し移動していました。他児との席の距離もかなり離し、尚且つ、パーテーションでB君のテーブルを囲んでいた時期もありました。

- 園での食事環境は保護者とも共有して進めてきましたが、職員間でB君に対して、他の子との関係性や、「食事を通してB君が得るものは一体何か？」等の視点で見直しをしました。

## ▼ 気づきと学び

- 2歳児クラスとなり、B君も成長と共にできることやしたいことが増え、自分で着替えた衣類を汚れ物袋に片付けられることが嬉しそうでした。
- 食事スペースのレイアウトの見直しなど環境を整えたことで、B君を含めてクラスの子どもの表情も豊かになり、スムーズな生活の動きが見られました。
- 保育園において、誤食を防ぎ安全に食事を提供することは重要ですが、安全性と成長発達に見合った保育との両面を常に考えて行う必要性を職員間で話し合うことで、多くのことを学びました。

## 職員のスキルアップ



### 職員のスキルアップとは

保育園において、子どもに関わる全ての職員一人一人が質の向上に向けて意識を持つことが大切です。特に、毎日の保育実践と振り返りを繰り返していくことで、専門性の向上につながっていきます。また、保育園内外の様々な研修等に参加することで、職員にとって大切なスキルや知識、技術を修得することが出来ます。

### 「保育士のための自己評価チェックリスト」の活用

保育園では自らの保育実践を振り返り、自己点検し見直すことによって保育の質の向上に努めています。また、チェックをするだけでなく、園内でリストをもとに職員同士保育を語り合うことも大切です。園全体の保育力向上のために定期的に振り返りを行っていきましょう。

### 目指したい姿

- 職員同士が保育のことや子どもの話を気軽に話し合い、園の活性化を目指す。
- 一人一人がスキルアップのため意欲的に研修に参加する。
- 様々な研修や交流を通して、他園の職員との情報交換を活発に行い、自園の保育の向上を目指す。

### 職員間の課題

- 日々の業務に追われて、職員同士が保育内容や実践について学び合う時間を作るのが難しい。
- 毎日の保育の振り返りをする時間や、子どもの話を積極的にしあう時間が取れない。
- 経験年数の違う職員同士で、どのようにコミュニケーションを取っていけばいいのかわからない。

日々の業務の中で、打ち合わせの時間を作ることが難しい現状があります。打ち合わせの中でも、子どもの話をする、保育の話をするなど、コミュニケーションの課題は多くあります。保育の振り返りや得た情報を職員同士で共有し合い、振り返りを行うことを園全体で計画的に進めていくことも大切です。

### 保育の中で、失敗することをおそれたり

### 不安な気持ちになることもあります。

### しかし、色々な経験を積み重ねていくことで、

### 自分の保育の質の向上につながっていきます。

### まずは、自分自身が保育を楽しむ気持ちを持つといいですね。

## column 1

### 職員訓練 AEDの操作方法を学ぶ

子どもの命を預かる保育士は、どのような状況下でも冷静な判断力と的確な対応が求められます。災害発生時や緊急時に的確に判断し対応をするために、保育園では繰り返しいろいろな訓練を行っています。

訓練により消防や警察などにも協力をお願いします。場面を想定しながら行動するトレーニングは効果的で、正しい対処方法の指導を受けることができます。

繰り返し訓練を行うことで、的確な判断につながっていくので、継続し行っていくことが大切です。



人形を使ったAED訓練

## column 2

### 散歩先での訓練

散歩先では、様々なアクシデントに遭遇する可能性があります。

そのため、怪我や地震等を想定した訓練内容を、あらかじめ作成し、内容に沿って訓練を行っています。

#### 【方法】

- ①事前準備をする→訓練内容を作成する
  - 例1 「A君が公園内の滑り台から転落して頭部を打撲した」
  - 例2 「公園内で遊んでいたら震度5の地震に遭遇した」
  - 例3 「B君が公園内で転び額を切って出血した」等が書いてあるメモを封筒に入れて用意しておく。
- ②散歩に行く際に各クラス封筒を1枚持参し、公園到着後に封筒を開封する。
- ③訓練を実施する。

年に1回は以上のような訓練を実施し、いざという時に備えて実働訓練をしています。

case  
17

## 職員間のコミュニケーション♪かたるん♪

【事例内容】  
職員

テーマに沿って話してみよう



カプセルトイに入れたテーマの一部

「いろいろなクラスの職員と話し合いを持ちたい。」

「こんな時、皆はどうしているの？と気軽に話を聞いてみたい。」

それを実現するためにサブリーダー会のメンバーが中心となって検討をし、毎週木曜日にミーティングをすることを企画、会議の名称は親しみを込めて『♪かたるん♪』と名付けました。

## ✓ 取組とポイント

昼の時間帯は打ち合わせが入ることが多いため、夕方の17:00～17:15の時間を設定し、経験年数にかかわらず、乳児各クラスと幼児クラスから1名ずつ参加をしています。サブリーダー会で考えた4～5個のテーマをトイカプセルに入れ、くじ引き方式でその日のテーマを決めています。(テーマは約2か月に1回変更をしています)

もちろんテーマ以外のちょっとした保育の悩みを相談することもあります。

- 参加した4～5人全員が必ず発言をし、一人一人の話に真剣に耳を傾け、肯定的に受け止めることを大切にしています。

## ✓ 気づきと学び

- 「自分がやっていた事は少し不安もあったけれど、これで良かったんだ」「ベテランの先生もこんな風に考えて保育をしているんだ」など、いろいろなクラスの様々な経験年数の職員が、気軽に楽しい雰囲気の中で話し合うことが大切だと思いました。

- 後輩の話から学ぶことも多くあり、『♪かたるん♪』の取り組みが園全体のコミュニケーションや風通しの良さにもつながっています。

case  
18ドキュメンテーションの共有を通じた  
保育の振り返り【事例内容】  
職員

各クラスのドキュメンテーションに自由に付箋を貼っていく

以前から、毎日の各クラスの様子を写真に撮り、保護者に向けてドキュメンテーションを掲示していました。そんな中、職員の間では、日々の保育の共有が優先され、園全体で保育の話し合いや振り返りの時間が取れないことや、他のクラスの保育の様子を知る機会が少ないことが課題となっていました。

そこで、掲示していた保護者向けのドキュメンテーションを活用して、保育の質の向上に活かさないかと考えました。

## ✓ 取組とポイント

保護者向けドキュメンテーションを掲示し終えたあと、それを更新する時に前のドキュメンテーションを事務室内に張り直し、職員が見られるようにしました。

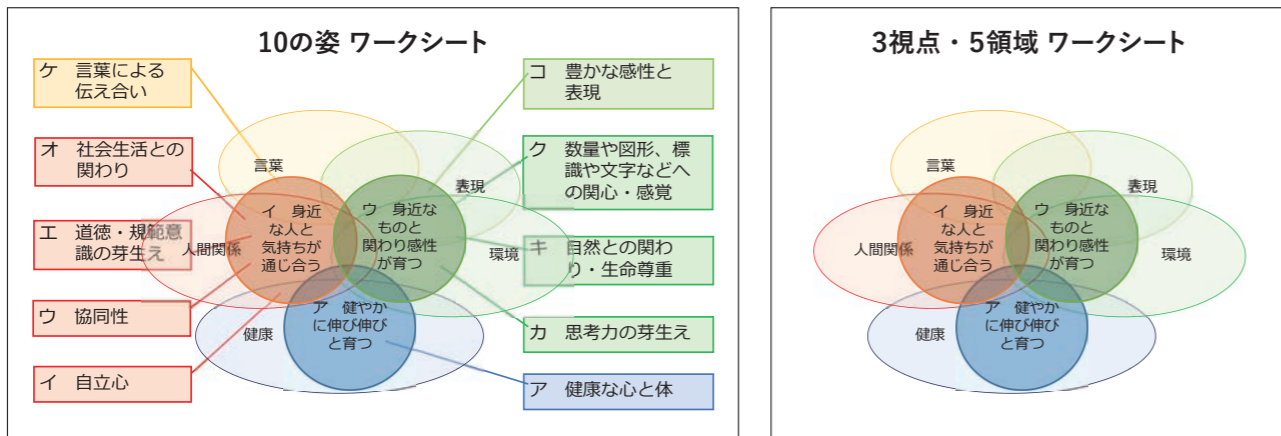
職員は①他のクラスの子どもが何に興味があるのか②それに対する保育士の関わりやねらいは何かなど、他のクラスに「否定的な意見は出さないこと」を前提に、聞きたいことを付箋に記入しコメントを出し合うようにしました。

また、付箋以外でも直接職員に声を掛け、他のクラスの保育を知る中で、次第に園全体の保育を知る手段にもなっていました。

- 付箋で貼られたコメントは、月1回のクラス打ちの中で振り返り、子どもの興味、関心を共有しながら、これからの保育につなげていくようにしました。

## ✓ 気づきと学び

- ドキュメンテーションを通じて、様々な角度から他のクラスを見ることで、クラスの保育や子どもの声や姿が読み取れ、職員同士の気づきや保育の質の向上にも繋がってくると考えています。
- 自分のクラスについて他の職員からコメントをもらうことで、信頼が深まり、安心感がでてきたという職員の声も聞こえてきました。
- 反面、継続が難しいという課題や、ドキュメンテーションの見せ方、記録の取り方も自己流のみになりがちのため、様々な方法があることを知り、継続をしていきたいと考えています。



「日々の業務に追われ、一番大切な子どもの姿を語り合う時間が十分に持てない」そんな悩みからこの取り組みが始まりました。

子どもの姿を語り合うことで、きっと見方が変わる、自分では見えていなかった姿や気づきがきっとあるはずです。

✓ 取組とポイント

子どものことを話す時、以前はどうしても『気になる姿』が話題になる傾向がありました。また、子どもによって偏りも出てしまいました。そこで、毎月のクラス打ち合わせで「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を記載したワークシートを使い、話し合いを行っています。(乳児クラスは「3視点・5領域」のシートを使用)

ルールは、『必ず全員の子どもについて話をすること』としています。今回の取組は、その子の『良いところ』や『輝いている姿』をテーマにしたことで気づきもたくさんあり、その後の保育にも変化が見られました。

- その子の『良いところ』や『輝いている姿』を付箋に書いてワークシートに張り、それぞれの職員の目線で子どもの姿を語り合います。

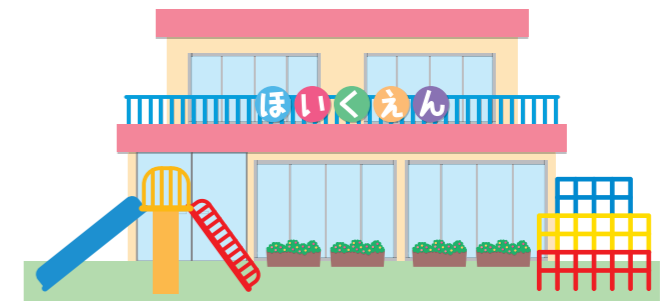
✓ 気づきと学び

- この話し合いは、『子どもを見る目をたしかなものに』という、保育士にとって一番大切な力をしっかりと身につけていくための大切な学びの時間となっています。
- 目の前の子どもをきちんと見ることができると、おのずと『子ども主体』の保育へと変わっていくことができると思っています。
- 保育はチームで行います。この取組を行うことで、子どもの姿を共有し、同じ目線で成長をとらえることができ、職員にとっても大きな学びにつながっています。

公開保育

港区の公立保育園、認定こども園は、区内認可保育施設や港区保育室、小規模保育事業所の保育士を対象に、毎年公開保育を実施しています。

他園の保育内容や保育環境を見学して、自園の保育実践に活かしていくことを目的としています。保育士の感想からは、環境は違っても「子ども主体の保育環境」という目線で、保育環境を工夫していきたいという意見や、園庭の環境の見直しのヒントが得られたなど、保育士の学びに繋がっています。



往還型の研修

区では、往還型の研修を実施しています。「往還型」とは、研修で受けた内容を保育現場で実践し、その内容を次の研修に持ちよるなど、外部研修と保育現場での実践を繰り返すというスタイルをいいます。令和5年度は、区内認可保育施設等の副園長、主任級を対象に「リーダーとしての役割を考える」というテーマで年間5回継続して行いました。公立・私立の保育士と一緒に研修に参加し、テーマに沿ってグループワークで討議を重ねます。園内で直接的な保育支援を行うリーダーとして、保育の課題を共有し学び合うよい機会となっています。今後も対象職員の範囲を広げて研修を継続し、職員のスキルアップを目指していきます。



グループワークの様子

保育アドバイザー派遣事業

column 3

港区では令和4年度から、保育の質の向上を支援するため「保育アドバイザー派遣事業」を実施しています。区内認可保育施設等・認定こども園・小規模保育事業所を対象にしています。保育園が抱える様々な課題に対して、保育の専門家が保育園を訪問し、園の状況に応じた助言や指導を行っています。

具体的な保育のアドバイスをもらい、クラス的环境設定を見直すきっかけとなったり、保育士同士で子どもの姿や保育について改めて話し合う機会にもなっています。

column 4

職員のクラブ活動



太鼓クラブを保護者の前で披露

保育の現場は、子どもたちと同様に幅広い年齢層や個人の価値観など、多様性の中でチームワークを高めていかなければいけない部分があります。

自園では、そんな職場環境の手助けになっている職員のクラブ活動があります。5才児クラスが太鼓の準備を始めるのと同進行で、職員たちが太鼓クラブの練習を始めます。経験者が未経験者に太鼓を教える形で開園以来続いています。保育の現場は、クラスとして一緒に働くグループで関係が完結してしまいがちですが、一緒に練習することで様々な職員同士の交流が見られ、職員関係がスムーズになることが見てとれます。

さらに、保護者の前で演奏をすることで達成感を味わい、自信にも繋がっているように感じます。失敗も成功もお互いを励まし合う良い機会になっています。

港区保育の実践ガイドライン策定委員会開催状況

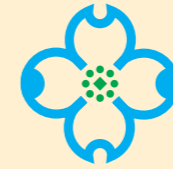
	開催時期	主な検討内容
第一回	令和5年5月	事例検討
第二回	6月	事例検討
第三回	7月	事例検討
第四回	9月	事例集構成と概要部分の確認
第五回	10月	事例集構成と概要部分の確認
第六回	12月	事例集全般の最終確認

港区保育の実践ガイドライン策定委員会名簿

	氏名	所属
委員長	野澤 祥子	東京大学大学院教育学研究学科准教授
委員	松浦 美奈	こども教育宝仙大学こども教育学部専任講師
委員	山口 一二美	港区立芝公園保育園長
委員	興津 夏子	港区立芝浦アイランドこども園長
委員	吉富 万里奈	こころ新橋保育園長（私立）
委員	嶋本 裕美	港南あおぞら保育園長（小規模保育事業所）
委員	横尾 恵理子	港区子ども家庭支援部子ども政策課長

作業協力：小玉 直美（港区立西麻布保育園長）・鈴木 郁子（港区立本村保育園長）  
 事例提供：区内公私立認可保育園・認定こども園・小規模保育事業所・港区保育室  
 事務局：港区子ども家庭支援部子ども政策課子ども施設指導係  
 平田 景子・田中 江身子・最首 治

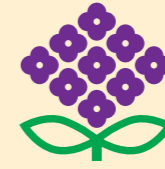
区の木



ハナミズキ

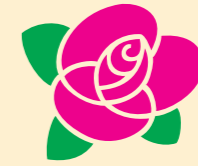
ミズキ科  
北米原産 外来種  
落葉広葉樹

区の花



アジサイ

ユキノシタ科  
日本(関東南部)原産  
落葉広葉樹 1.5~2.0m



バラ

バラ科  
日本、中国、欧州原産  
常緑落葉低木つる

区のマーク



港区のマークは、昭和24年7月30日に制定されました。  
旧芝・麻布・赤坂の三区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

刊行物発行番号 2023177-4814

保育の質向上に向けたガイドライン  
**港区保育の実践事例集**

令和6年(2024年)3月発行

港区保育の実践ガイドライン委員会  
発行：港区子ども家庭支援部子ども政策課

〒105-8511  
港区芝公園1丁目5番25号  
電話：03(3578)2111 [代表]





MINATO CITY

